

新規事業採択時評価結果（平成17年度新規事業化箇所）

担当課：中国地方整備局地域道路課
 担当課長名： 田村 央

事業の概要

事業名	一般県道 本庄福富松江線	事業区分	地方道	事業主体	島根県
起終点	自：島根県松江市西尾町 至：島根県松江市西尾町	延長	0.90 km		
<p>事業概要</p> <p>一般県道本庄福富松江線は、平成15年度より事業化された地域高規格道路「境港出雲道路」の一部を構成する一般国道485号松江第五大橋道路の西尾IC（仮称）と松江市中心部（北部）とを結ぶ重要な路線となる延長0.9 kmの道路改築事業である。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>本路線は島根原子力発電所の原子力災害時の緊急避難路としても重要な役割を担っているだけでなく、慢性的な松江市街地の渋滞解消を図るなどアクセス機能の向上を図るため、松江第五大橋道路などの地域の主要な交通道路網を構築すべく重要な事業となっている。松江第五大橋道路は、平成20年代前半に一般国道9号松江道路から一般国道431号までの暫定供用に向けて事業中であるため、西尾IC（仮称）の1次アクセス道路となる本区間は、松江第五大橋道路の整備と連携して事業を進める必要がある。</p> <p>全体事業費 15億円 計画交通量 7,240台/日</p> <p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

松江第五大橋道路（一）本庄福富松江線は、宍道湖・中海周辺地域の一体化、松江市街地の渋滞緩和、緊急時の迂回路として期待されており、松江市八束郡の首長、各種団体代表から構成される松江第5大橋架橋促進期成同盟（平成16年10月15日）から早期整備の要望を受けている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている
 手続きの完了：都市計画決定済

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.5	総費用：12億円 （事業費：12億円 維持管理費：0億円）	総便益：44億円 （走行時間短縮便益：41億円 走行費用減少便益：2億円 交通事故減少便益：1億円）	基準年：平成16年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.5（交通量 +10%）	B/C=3.5（交通量 -10%）		
		事業費変動	B/C=3.2（事業費 +10%）	B/C=3.9（事業費 -10%）		
	事業期間変動	B/C=3.3（事業期間 +20%）	B/C=3.8（事業期間 -20%）			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		主要渋滞ポイントの解消 一般国道485号松江第五大橋道路と一体となって整備することにより、松江市東部から北部、南部へ向かうアクセスが向上し、県の主要渋滞ポイントの解消が図られる。 JR松江駅東交差点 渋滞長 900m 300m 北公園北交差点 渋滞長 800m 400m		
		事故対策	-			
		歩行空間		一般国道485号第五大橋道路と一体となって整備することにより、橋南地区から市立女子高校への新たな通学路となるため、歩道を設置。 通学生歩道利用者数 168人/12h		
	社会全体への影響	住民生活		松江市西尾町から新松江市立病院までのアクセスが向上する。 西尾地区～新松江市立病院への所要時間 20分 10分		
		地域経済		一般国道485号第五大橋道路と一体となって整備を推進し、地域の主要な交通道路網として機能させる。		
		災害		当路線は、島根原子力発電所の原発特措法に基づく復興計画に位置付けられており、原子力災害時の円滑な避難又は緊急輸送を確保するために重要な役割を担っている。 松江市東部の住民約1万4千人の避難路を確保		
環境			自動車からのCO2排出量の削減 CO2排出削減量：203t/年			
	地域社会		八束町から生活圏中心都市である松江市までのアクセスが向上する。 八束町役場～松江市役所への所要時間 26分 22分			
事業実施環境			地元より早期整備の要望を受けている。			

採択の理由

本事業は、便益が費用を上回っているとともに、自動車・歩行者、社会全体への影響も大きい。また、地元早期整備要望があり事業実施の環境は整っている。
 特に、松江市内の主要渋滞ポイントの解消、原子力発電所災害時における緊急避難・輸送路の確保に大きな効果が見込まれる。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。